

土 木 委 員 会 委 員 協 議 会 記 録

1 会議の日時	開 会 午前 9時57分 令和4年1月27日(木) 閉 会 午前10時34分
2 会議の場所	厚生環境委員会室
3 出席者	委 員 委員長 広瀬 修 副委員長 今井 政嘉 尾藤 義昭 村下 貴夫 松岡 正人 高木 貴行 山内 房壽
	執 行 部 別紙配席図のとおり
4 事務局職員	課長補佐 大野 享子 主査 柘植 健太

5 会議に付した案件		審 査 の 結 果
件	名	
1	川島大橋の災害復旧事業の進捗状況について	
2	県内の橋りょう、トンネル及びライフライン施設における点検の取組状況について	
3	その他	

6 議事録（要点筆記）

○広瀬修委員長

ただいまから土木委員会委員協議会を開会する。

本日の協議会は、委員会の所管事項の調査や施策の評価の充実を図るため開催する。

なお、コロナ禍の折、本日の執行部の出席者については、議題に関係する所属に限定している。

それでは、議題1「川島大橋の災害復旧事業の進捗状況について」、執行部からの説明を求める。

質疑は、説明終了後にお願ひする。

（県土整備部長挨拶の後、関係課長が資料に基づき報告）

○広瀬修委員長

ただいまの説明に対し、質問等はあるか。

○松岡正人委員

県及び県警には地元の要望に速やかに対応していただき、感謝申し上げます。復旧にあたり、現時点で工期が遅れるなどの課題や問題点はあるか。

○青木道路維持課長

国からは、現在のところ課題や問題点があるとは聞いていない。

○松岡正人委員

川島大橋の復旧については、地元も一日も早い復旧を望んでいる。何か課題があれば報告や対応をお願いしたい。

○広瀬修委員長

質疑も尽きたようなので、これをもって、議題1「川島大橋の災害復旧事業の進捗状況について」の説明聴取を終了する。

次に、議題2「県内の橋りょう、トンネル及びライフライン施設における点検の取組状況について」、執行部からの説明を求める。

質疑は、説明終了後にお願ひする。

（関係課長が資料に基づき報告）

○広瀬修委員長

ただいまの説明に対し、質問等はあるか。

○広瀬修委員長

先ほど説明のあった川島大橋について、被災前の点検の判定区分はどうだったのか。

○青木道路維持課長

被災前の川島大橋は部材により判定Ⅱ（予防的観点から修繕等が望ましい状態）からⅢ（早期に修繕等が必要な状態）となっており、下部については判定Ⅱであった。

○広瀬修委員長

川島大橋の災害を受け、点検マニュアルを改訂するとの説明があったが、改訂時期はいつか。

○青木道路維持課長

令和3年度中を予定している。

○広瀬修委員長

質疑も尽きたようなので、これをもって、議題2「県内の橋りょう、トンネル及びライフライン施設における点検の取組状況について」の説明聴取を終了する。

○広瀬修委員長

以上で本日の議題は終了したが、この際何か意見はないか。また、執行部から何かないか。

（リニア中央新幹線瀬戸トンネル事故に伴う県の対応について、関係室長が資料に基づき報告）

○広瀬修委員長

ただいまの説明に対し、質問等はあるか。

○高木貴行委員

環境影響評価審査会にも専門家がいると思うが、リニア建設工事安全対策専門家会議とはどういう組織なのか。

○伊藤リニア推進室長

環境影響評価審査会では工事の安全対策面からの議論はできないため、トンネル工学や地盤工学の大学教授等5名の専門家で構成する新たな組織を設けたものである。

○高木貴行委員

そもそも工事前にJR東海がJV等と安全対策について協議をした上で工事施工をしていると思われるが、こうした専門家が議論することで現場の安全性が増すのか。

○伊藤リニア推進室長

委員は、もともと建設コンサルタントをしていた方や、道路設計の研究をされていた方など、現場にも非常に精通されている方を全国から探して協力をお願いした。

今回の事故に関して、地元に関心があり、工場の安全対策がなされているのか地元で不安の声があるという事情も踏まえ、県として、JR東海に対して報告書の提出を求めており、安全対策といった観点から報告書を確認し、意見していく必要があると考えている。

○高木貴行委員

2027年のリニア開業の見通しについて、県の見解を聞きたい。また、JR東海から見通しを聞いているのか。

○伊藤リニア推進室長

JR東海幹部からは2027年の開業が難しくなってきたとのコメントも出ているが、正式には開業延期を表明していない。県としては、予定通り2027年の開業を求めていく半面、工事の安全面に十分留意し、地元の理解を得ながら工事を進めていただく必要があると考えている。

○高木貴行委員

2027年の開業に向けて、県ではリニア開業効果を想定したいろいろな事業が進められていく中で、開業予定から5年、10年と遅れることも懸念される。リニア活用戦略の見直しはどのように進めていくのか。

○伊藤リニア推進室長

現行のリニア活用戦略の策定後、地方分散やSDGs、建設発生土の安全対策等の課題が顕在化していることから、今年度からリニア活用戦略ブラッシュアップ懇談会を立ち上げ、戦略の見直しに向けた検討を進めているところ。短期的取組み、長期的取組みというように、時間軸を設け、メリハリをつけたプロジェクト展開を考えている。

リニア活用戦略は来年度、策定予定なので、適宜、議会に報告させていただく。

○尾藤義昭委員

静岡工区の問題について、JR東海から岐阜県に対してどのように報告されているか。

○伊藤リニア推進室長

静岡工区の問題については、JR東海としても、大井川流域の地元の理解と協力を得ながら進めていきたいとの見解が新聞報道等で示されているところであるが、岐阜県に対しても、要望の場等で、同社幹部から同様の報告がなされている。

○尾藤義昭委員

大事な問題なので、JR東海からは引き続き丁寧に説明をさせるべきである。

○伊藤リニア推進室長

JR東海には、引き続き、情報開示と丁寧な説明を求めていく。

○広瀬修委員長

県が工事再開のゴーサインを出さなければ工事が進められないと認識している県民もいるようだが、工事再開は国とJR東海の間の話なのか。県の立場はどうなっているのか。

○伊藤リニア推進室長

県としては、地元の安全・安心を確保し、リニア工事を適正に施工していただきたいという立場である。そういった立場から今回の事故に関して、県としてＪＲ東海に対して報告書の提出を求め、安全対策などの観点からＪＲ東海の対応を確認している。

今後、報告書に対する県としての意見を取りまとめていくが、県の意見に対して、ＪＲ東海が必要な対応をし、両者納得した上で、ＪＲ東海の判断で工事の再開時期を決定していくこととなる。

○広瀬修委員長

これをもって、本日の委員協議会を閉会する。

土木委員会配席図

							尾澤 道路管理企画監	
--	--	--	--	--	--	--	---------------	--

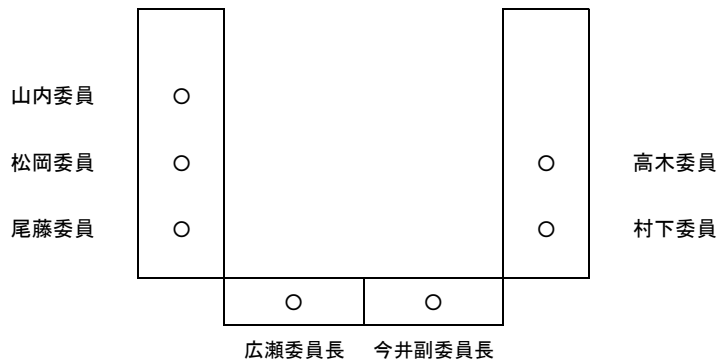
	伊藤 リニア推進室長			林 道路建設課長			岩井 河川課長	
--	---------------	--	--	-------------	--	--	------------	--

	岡田 水道企業課長			上田 下水道課長			青木 道路維持課長	
--	--------------	--	--	-------------	--	--	--------------	--

	幸畑 都市政策課長			水野 都市公園整備局 副局長			飯島 建設政策課長	
--	--------------	--	--	----------------------	--	--	--------------	--

	朝倉 都市建築部次長			西 県土整備部次長			野崎 県土整備部 土木技監	
--	---------------	--	--	--------------	--	--	---------------------	--

	湯澤 都市公園整備局長			大野 都市建築部長			船坂 県土整備部長	
--	----------------	--	--	--------------	--	--	--------------	--



廊
下
側